

エッセイ

来てくれて、ありがとう

菅井 貴子

写真：小森 学

「日本にこんなところがあったんだ!」

北海道のまっすぐに伸びる道路は、まるで空につながるようです。吸い込まれるようにペダルをこぎ続けました。横浜出身の私が、初めて北海道に来たきっかけは、大学時代の所属していた自転車部の合宿。釧路～弟子屈～標津～知床～旭川を2週間かけて走りました。

道路脇を走る自転車の列を見たことはありませんか？

20年も前にはなりますが、私もその一人。8人グループで走りました。モクモクとペダルをこぐように見えても、体育会系の自転車部。飛び交う会話は、結構、ハードです。ペースが一番遅かった新入生の私は、先頭か2番目を走ることになるのですが、後ろから、先輩の声が飛んできます。

山道でペースが落ちると、

「お前の太ももは豆腐か～！ 普段の筋トレが足りない証だっ!」

「その速度だと、いつ着くかわからねーぞ！ 野宿すっか。クマが出るぞ」

すっかり息が上がっている私は、蚊の泣くような声で、「ふう…頑張ります…」

先輩「声が小さい～！ 根性を出せ～!!」

私「ハイ～(涙)!!」

もはや、汗だか、涙だかわかりません。クチャクチャに濡れた顔で、がむしゃらに次の目的地を目指しました。

先輩が厳しかったのには、理由があります。北海道は広さが故に、町から町までの距離が長く、山や農業地帯に入ると、店もコンビニも、街灯のない道もあります。当時は、携帯電話もない時代です。ギブアップしたくても、助けを呼ぶことができません。いったん町を離れたら、日が暮れるまでに、何が何でも、次の町の民宿に辿り着かなければならなかったのです。

体力的には相当ツライ合宿でしたが、北海道の温かな「人」の出会いが、次の目的地に向かう楽しみでした。

標津町の民宿は、経営者が漁師さん。関東から来た学生と知ると、「北海道を、うんと楽しんでいげ!」と、夕食は番屋を開いて、海の幸、山の幸、炭火焼フルコース。翌朝は、午前3時にモーニングコール(といっても、ドアをどンドン叩く音)。サケ漁が最盛期を迎えていた頃でもあり、特別に出してくれた船で間近で見学をさせてくれました。漁を終えると「もってげ!」と、お土産にサケ3匹…。

そんな最高のおもてなしと一緒に、かけられた言葉が「北海道に来てくれてありがとう」。

地元のアゲが詰まった、とてもとても素敵な言葉です。いつか、その言葉を発する側の人になりたいと思いました。

その10年後、移住が実現。気象予報士として、ずっと希望を出し続けた北海道勤務が叶いました。毎日、天気予報を伝えながら、改めて感じたのは、気候から見た北海道は、面積以上に広い地だということ。

例えば、年平均気温が最も高い町は、松前町で10.2度。一方、低い町は、上士幌町で3.5度。松前町～上士幌町の差は、7度近くにもなりますが、東北～九州地方に相当するほどです。つまり、北海道は、本州の気候が凝縮した地なのです。

さらに、オホーツク海は流水が来て、北極と同じ環境になる事実を踏まえると、北半球の天気現象のすべて揃った世界でも珍しい地と言っても過言ではなさそうです。

改めて、みなさんも、道内を旅して、魅力を再発見してみませんか。せっかくでしたら、天気のいい時がいいですね。気候特性から、北海道のエリア別のおすすめ時期をご提案します。

もし、日本海を望む長い海岸線「オロロンライン」を走るのでしたら、絶好の時期は6～7月です。初夏の日本海側北部は、道内の中でも、最も晴天率が高いエリア。悪天をもたらす東風や南風が吹いても、山々が雨雲や



霧をブロックしてくれ、青空が守られるエリアです。エゾ梅雨とも無縁の地かもしれません。

「道南エリア」でしたら、8月後半。お盆を過ぎると、北から秋雨前線がかかり始めますが、道南まで南下する頃には、前線活動も弱まります。北海道の広い範囲で、雨が多くなる時期ですが、道南だけは、晴れて夏日は、よくあることです。

「太平洋側」は、9月がオススメ。夏の霧シーズンも終わり、秋晴れの日が増える時期。海から昇る朝日や、沈む夕陽も一層きれいです。

秋が深まるころは、「空知、上川、十勝ルート」もいいですね。最低気温が8度以下の日が、数日続くと、紅葉も始まります。寒暖差の大きい内陸は、色づきも一層鮮やかです。

真冬でも、おすすめの道があります。それは、「オホーツク海側」。流水が近づくと、オホーツク海側の気候が変わります。海が氷の陸に変わることにより、海洋性から内陸性の気候に変わり、雪や吹雪の日が減り、晴れる日が増えます。路面凍結に気を付ければ、流水を望みながらのドライブは、北海道だけが楽しめる特権ですよ。

もちろん、各地域、他の季節でも違う楽しみ方もあり、時期を変えて場所を変えて、旅する道内は魅力が無限です。

私も、休日ごとに、できるだけ多くの町に出かけていますが、その都度、新たな発見があります。そして、道外からの観光客と交流の機会があれば、こう言います。

「北海道に来てくれてありがとう」と。

Thank you for coming.



菅井 貴子(すがい・たかこ)

■プロフィール

横浜市生まれ。明治大学理工学部数学科卒業。(移動距離は)日本一の気象予報士を自負。北海道から九州まで、全国各地の放送局にて、天気コーナーを担当。2006年、北海道に移住。

NHKキャスターを経て、現在はUHB(北海道文化放送)「みんなのテレビ」に出演中。気象予報士のほか、防災士・CFP(上級ファイナンシャル・プランナー)・健康気象アドバイザー・科学技術エコリーダーとしても活動をしている。2013年、北海道大学大学院教育学院「気候多様性に基づく地域活性化」論文にて修士取得。著書に「北海道の自立戦略を考える」(中西出版)「なるほど!北海道のお天気」『北海道のお天気ごよみ365日』(ともに北海道新聞社)等がある。